

ヨコハマ市民まち普請事業

整備事例集 vol.14

令和元年度整備事例集



私たちのまちを
私たちでつくる
きっとまちが好きになる



掲載事例

- ①歴史と環境をテーマに安心して楽しめる里海公園づくり(金沢区)
- ②鶴見の多文化・多世代の共創拠点づくり まちのリビング(鶴見区)
- ③世代を超えた集いの場にするための拠点づくり(南区)
- ④太陽とコミュニティで耕すもろおかエコステーション(港北区)

④は平成29年度整備

ふ-しん【普請】「普く請う(あまねくこう)」とも読み、「力を合わせて作業に従事すること」という意味が含まれています。

「公共」は行政によってのみ担われるものではなく、特に地域に根ざした身近な課題への対応などに市民の皆さんのが主体的に関わることで、参加する人や地域に暮らす人々の満足感を高めることにつながっていきます。「まち普請」には、市民に身近な「まち」に「普請」の輪を広げていきたいという願いが込められています。

太陽とコミュニティで耕すもろおか エコステーション(港北区)

「事業初の整備後の退去を乗り越えた、地域の絆のステーション」

熊野の森もろおかスタイルは、東日本大震災を契機に、港北区師岡地区で、地域でエネルギー・コミュニティについて考えようと立ち上がったグループです。

最初は市民共同発電所をつくり、座学を中心に活動をしていましたが、実際に身体を動かすことも必要と考え、地域の畠を借りて、育てた収穫物をエコストームやソーラークリッカー※6を使って調理するなど災害時に地域で最低限の生活ができるよう経験を重ねていきました。また、地域のつながりづくりのために、地元の高校の落語部と一緒に寄席を開いたり、野外での映画観賞会を開催したりしていました。様々な取組を通してエネルギー・コミュニティ・農・防災を軸に活動が広がっていく中で、「拠点があればもっとできることが増えるだろう」と考えたメンバーは、まち普請への応募を決めます。



移設後のお披露目会の様子。コミュニティカフェでの利用も期待される

最初は市販の整備品を購入する方法ですが、実際に使うことで問題が現れました。最初は市販の整備品を購入する方法ですが、実際に使うことで問題が現れました。

たくさんの地域の人たちに関わってもらいながら整備を進めてきましたが、いよいよ完成目前という段階で、畠を使用することができなくなってしましました。この状態にメンバー全員が頭を抱えましたが、退去までの期間が短く、悩んでいる時間もありません。整備したパーコラцияやテーブルなどを解体し、カフェの庭を提供してくれることになりました。幸いにもローソンで整備した頃、ついに空き家を活用してコモンティカフェをはじめる団体が、熊野の森もろおかスタイルの活動に賛同ませんでした。しかし、解体から2年が経過した頃、ついに空き家を活用してコモンティカフェをはじめる団体が、熊野の森もろおかスタイルの活動に賛同

したものが多かったので、新たな場所への移設作業も自分たちで協力して行い、令和2年1月にお披露目の会が催されました。最初に作りたかった畠の中の拠点ではありませんが、近くにある師岡町梅の丘公園市民農園と合わせてエコステーションの活動を行なっています。

お披露目会後に、新型コロナウイルス感染症が拡大し始めますが、屋外活動は比較的影響が少なく、親子連れの参加が増えたそうです。「子どもに自然とかかわる機会を持たせたかった」「ういう場所を求めていた」という

まち普請のコンテストに向けて活動するうちに、メンバーはさらに増えてしまいました。町内会からの後押しもありました。



モザイクスタイルのテーブルは退去前の畠で製作。多くの人が参加した

あつて、畠にお休み処となるバー「グラウンド」やテーブル、ベンチやかまど、さらには太陽光発電設備を設置して、「まちのエコステーション」を整備するアイデアは見事「コンテスト」を通過します。

ワークショップを何度も開催して、たくさんの地域の人たちに関わってもらいました。この状態にメンバー全員が頭を抱えましたが、退去までの期間が短く、悩んでいる時間もありません。整備したパーコラцияやテーブルなどを解体し、カフェの庭を提供してくれることになりました。幸いにもローソンで整備した頃、ついに空き家を活用してコモンティカフェをはじめる団体が、熊野の森もろおかスタイルの活動に賛同

したものが多かったので、新たな場所への移設作業も自分たちで協力して行い、令和2年1月にお披露目の会が催されました。最初に作りたかった畠の中の拠点ではありませんが、近くにある師岡町梅の丘公園市民農園と合わせてエコステーションの活動を行なっています。

お披露目会後に、新型コロナウイルス感染症が拡大し始めますが、屋外活動は比較的影響が少なく、親子連れの参加が増えたそうです。「子どもに自然とかかわる機会を持たせたかった」「ういう場所を求めていた」という

もつと増やそつ」「畑を増やさないか」という話も出てきており、せりには養蜂も始めるそうです。熊野の森もうおかスタイルの今後の展開にますます期待が高まります。



畠作業やエコストーブなどの実践は梅の丘公園で継続して行われている

Access Map

**太陽とコミュニティで耕す
もうおかエコステーション(港北区)**

整備主体：熊野の森もうおかスタイル
整備場所：港北区師岡町600
整備内容：交流拠点(バーコラ、ベンチ等の製作)
竣工時期：令和2年1月
(平成30年1月に竣工後一度撤去)

加者の声も多く届いているとのこと。 「たくさんのお子さんや様々な世代の人々が畠仕事をするのを見ていて、こういう場所をつくるてよかったです。」 、「ナノによって、たくさんの気づきがありました」と代表の肥後さんは語ります。

完成直前で移転を余儀なくされるというハードルを乗り越えて、熊野の森もうおかスタイルの活動は着実に地域に根を下ろし、すそ野を広げています。「親子連れで参加できるメニューを

「ヨコハマ市民まち普請事業」とは

市民の発意とアイデアによる地域課題の解決や魅力向上に資する施設（ハード）を、身近な地域の公共空間や私有地などに整備する提案を募集し、二段階の公開コンテストにより選考された提案に対して次年度に最大500万円の整備助成金等を交付する事業です。



横浜市地域まちづくり推進委員会

ヨコハマ市民まち普請事業部会委員（平成30年度選考委員）※所属は平成30年度時点

- 岡本 溢子 NPO法人さくら茶屋にしづか理事長（まちづくり・市民活動）
男澤 誠 市民（公募委員）
河上 牧子 明治大学地域ガバナンス研究所客員研究員（都市政策）
川原 晋 首都大学東京*都市環境学部教授（市民主体の地域運営・まちづくり市民事業）※現在は東京都立大学
塩入 廣中 市民（公募委員）
菅 博嗣 （株）あいランドスケープ研究所代表取締役（花とみどり・公園緑地）
杉崎 和久 法政大学法學部教授（公共政策）
鈴木 やよい NPO法人横浜市民アクト理事（まちづくり）



ヨコハマ市民まち普請事業 整備事例集 vol.14

令和元年度整備事例集

- 発行 令和3年2月
横浜市都市整備局地域まちづくり課
〒231-0005 横浜市中区本町6-50-10 TEL 045-671-2679 FAX 045-663-8641
- 編集・デザイン 横浜市住宅供給公社
- デザイン・印刷 山陽印刷株式会社



「まち普請事業」についてはホームページをご覧ください。
<https://www.city.yokohama.lg.jp/kurashi/machizukuri-kankyo/toshiseibi/suishin/machibushin/>

Webで検索

Facebook「ヨコハマ市民まち普請ひろば」もご覧ください。
<https://www.facebook.com/yokohama.machibushin>

Webで検索